

カルチャートーク Creators@Kamogawa

第1部：『鳥の音楽』

太古の昔から、私たち人間は鳥の声に魅せられてきました。ハイドン、ベートーヴェン、ヴァーグナー、シュトラウス二世、マーラー、ラヴェル、メシアンら、多数の音楽家が鳴き声にインスパイアされ、さえずりを模したり、主題にしたり、曲の中に実際に取り入れたりしています。一方、最近の研究によれば、鳥の鳴き声は美しいだけでなく、「言語」であることが確かめられています。この知見は今後の音楽をどのように変えるのでしょうか。さえずりの構造をもとにした組曲を作曲中の音楽家と、シジュウカラの音声研究に取り組む動物行動学者が話合います。



© Jacopo Salvatori & Sara Gianguzza



ヤコポ・サルヴァトーリ (作曲家、ピアニスト)
Jacopo Salvatori (Komponist, Pianist)

1986年イタリア生まれ。イタリアでピアノを学んだ後、独ミュンヘンで作曲を学んだ。2017年、自作の新作オペラ『How to kill your mother. Elektra』が独ブラウンシュヴァイク州立歌劇場で初演された。また自身の演奏で『ドビュッシー：ピアノ作品全集』をCD録音。現在、鳥のさえずりの構造をもとにした組曲作曲に取り組んでおり、ウィラ鴨川滞在中も、幾種類もの鳴き声を持つ日本のシジュウカラの声を録音・分析し、ピアノのための作品を作曲予定。www.jacoposalvatori.com



鈴木 俊貴 (動物行動学者)
Toshitaka Suzuki (Verhaltensforscher)

立教大学大学院理学研究科にて博士号(理学)を取得。日本学術振興会特別研究員(SPD)、京大大学生態学センター研究員、東京大学教養学部助教などを経て、現在、京都大学白眉センター特定助教。鳥類を対象に、鳴き声によるコミュニケーションの生態的意義や認知的基盤を研究する。特にシジュウカラの音声言語に関する研究成果は、国内外の専門誌や多くのメディアで紹介され、大きな注目を集めている。日本生態学会宮地賞、動物行動学会賞など受賞多数。sites.google.com/site/toshinsuzuki



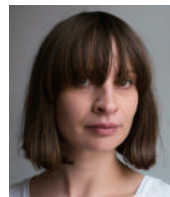
小崎 哲哉 (司会、構成)
Tetsuya Ozaki (Moderator)

1955年東京生まれ。ウェブマガジン『REALKYOTO』発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』『続・百年の愚行』を編著者として刊行し、現代アート雑誌『ART IT』を創刊。京都造形芸術大学大学院芸術研究センター客員研究員、同大学舞台芸術研究センター主任研究員、同大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーも担当した。2018年、『現代アートとは何か』を河出書房新社より刊行。2019年4月、フランス政府より芸術文化勲章シュヴァリエを受章。realkyoto.jp

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、アートやカルチャーに関連する話題について語り合うイベントシリーズです。

第2部：『花火の記譜法』

ジョン・ケージは消しゴムをピアノの弦に挟み込み、シュトックハウゼンはヘリコプターの中で奏でる弦楽四重奏を作曲しました。現代音楽ファンでなくとも、多くの方がご存じでしょうが、花火に材を取った、あるいは花火そのものを「楽器」として用いた音楽を聴いたことはあるでしょうか？ 今回の話者のひとり坂東さんは、芥川作曲賞を受賞し、その名も「花火」と題する協奏曲を発表した作曲家。レッツェルさんは、花火師の国家資格を取り、花火を用いた演奏会インスタレーションを発表した演出家にして美術家です。花火の何がふたりを虜にしたのでしょうか。



レア・レッツェル (演出家、美術家)
Lea Letzel (Regisseurin, Künstlerin)

1984年生まれ。ギーゼン大学でハイナー・ゲッベルスのもと応用演劇学を学んだ後、ケルン・メディア大学でメディアアートを学び、演奏会インスタレーション『オルガンと花火術のための協奏曲』を発表。2015年、花火師の国家資格を取得。現在、ケルンを拠点に、舞台芸術・美術・現代音楽の境界で活動する。ウィラ鴨川滞在中は、日本の花火の歴史や実践についてリサーチし、花火と音楽によるスペクタクルな作品を創作する予定。www.lealetzel.de



坂東 祐大 (作曲家、音楽家)
Yuta Bandoh (Komponist, Musiker)

1991年生まれ。東京藝術大学音楽学部作曲科修士課程修了。様式を横断したハイブリッドな文脈操作、サンプリングなどを駆使し、多岐にわたって創作活動を行う。第25回芥川作曲賞受賞(2015年)。2016年、Ensemble FOVEを設立。代表として気鋭のメンバーと共に様々なプロジェクトを展開している。主要作品に『花火-ピアノとオーケストラのための協奏曲』(サントリー芸術財団委嘱作品)、『TRANS』(京都芸術センター Co-programm)がある。yutabandoh.com

© Nozomi Teranishi

トークの後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。(飲食各自実費) 交流会では、滞在中のドイツの芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



主催・お問い合わせ
Goethe-Institut Villa Kamogawa
京都市左京区吉田河原町19-3 (川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線31#)
info@villa-kamogawa.goethe.org
www.goethe.de/villa-kamogawa/ja

〈交通のご案内〉
京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分
京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分

